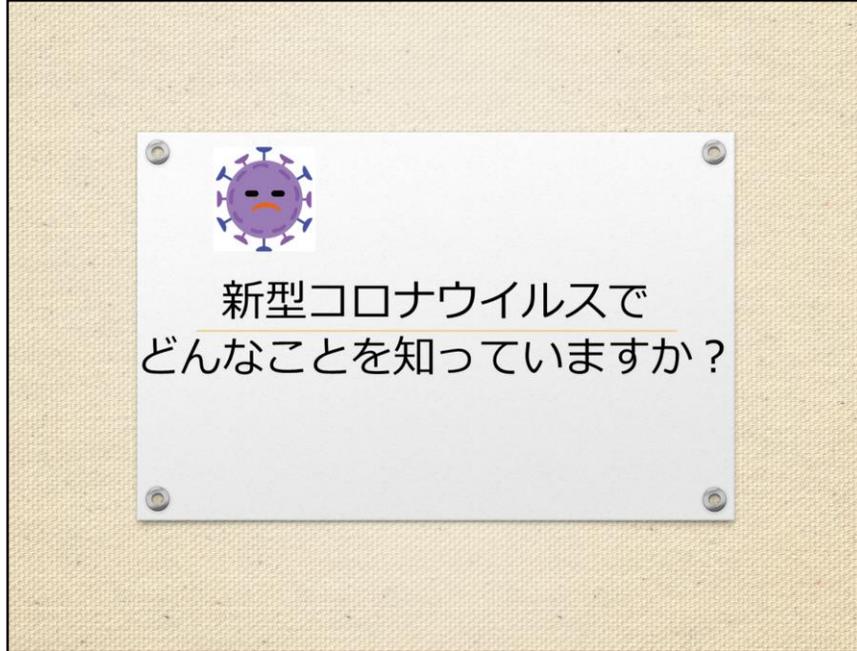




コロナいじめ防止教材（上学年用）【実施時間】20分程度

【ねらい】

先生が流した涙の意味について話し合うことを通して、新型コロナウイルスによる偏見や差別を防ぐために、自分ができることを考える。



1 新型コロナウイルスのことで、知っていることを出し合う。
「新型コロナウイルスについて、どんなことを知っていますか。」

(留意点)

- ・どんな意見でも受け入れることに留意する。
- ・事実ではない情報の場合、事実かうわさかを確認することが必要であることをおさえる。
- ・気になる様子の子どもには、その場でことばがけを行い、(後で)必ず個別に気持ちを聞くなどする。

新型コロナウイルスは、
まだ、わからないことがたくさん…

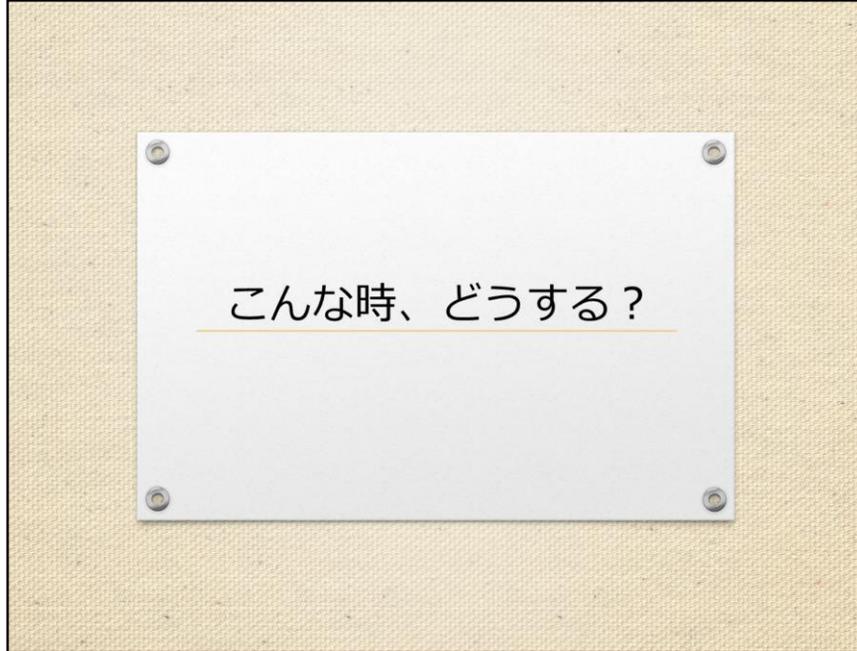
「手を洗う」
「マスクをする」
「人混みを避ける」
「換気をする」
「間近で会話や発声をしない」などで



感染しにくくなることがわかっています。

(留意点)

- ・新型コロナウイルスはまだ分からないことが多いけれど、〈手を洗う〉〈人込みを避ける〉〈換気する〉〈間近で会話や発声をしない〉などで感染しにくくなることが分かっていることを伝える。
- ・新型コロナウイルスのみならず、様々なウイルスの感染防止のための大切なことであることをおさえる。
- ・一人一人が意識して取り組むことの大切さを共有する。
- ・人間は未知の事象に対して不安を抱く→その不安な気持ちが差別につながることを助言する。



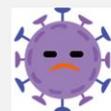
2 新型コロナウイルスに関わる、あるできごとについて知る。

(留意点)

・「ある小学校でこんなことがあったんだけど知っているかな」と提示する。

今年の4月、ある小学校の学級担任の先生が、新型コロナウイルスに感染しました。

その小学校は、その日からしばらくの間休校となり、消毒作業などが行われました。



(留意点)

- ・担任がゆっくりと読む。
- ・「何をしていたうつったの？」などの質問が出ても、【分からない】と伝える。

※【分からない】とは・・・感染経路や原因が分からないから、みんなが不安になっていることを共有する。

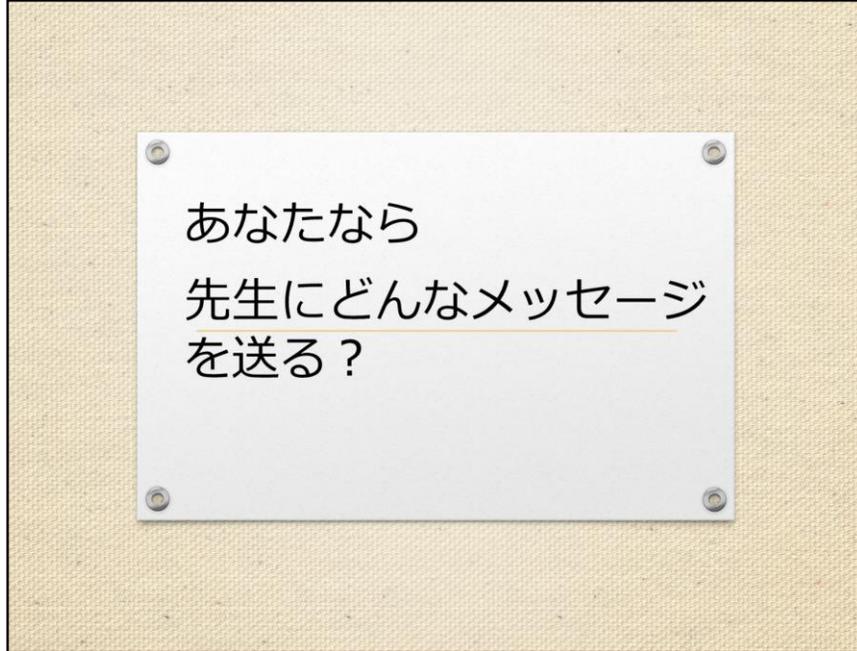
感染した先生、
クラスの子どもは、
どんな気持ちかな？



3 感染した学級担任の先生、クラスの子たちは、それぞれどんな気持ちだったか考える。

(留意点)

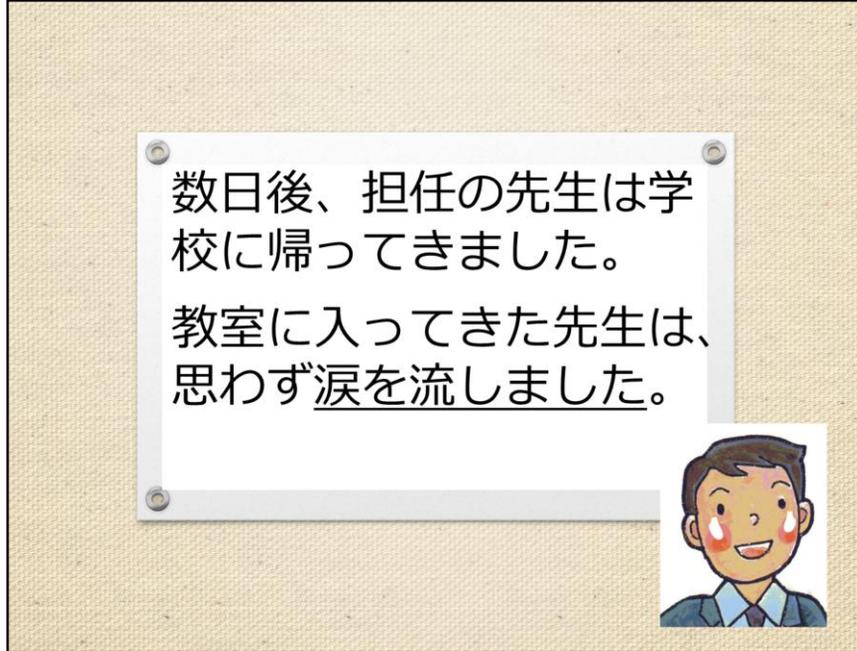
- ・感染した人には、何も責任はないし、悪くないことを伝える。(感染したくて感染した人はいない)
- ・指導者は子どもの発表ひとつひとつにコメントを加える。また、指導者のエピソードも加える等、共感する。
- ・自分の気持ちを言葉で伝えるよさをおさえる。



4 自分なら、担任の先生にどんなメッセージや声掛けができるか考える。

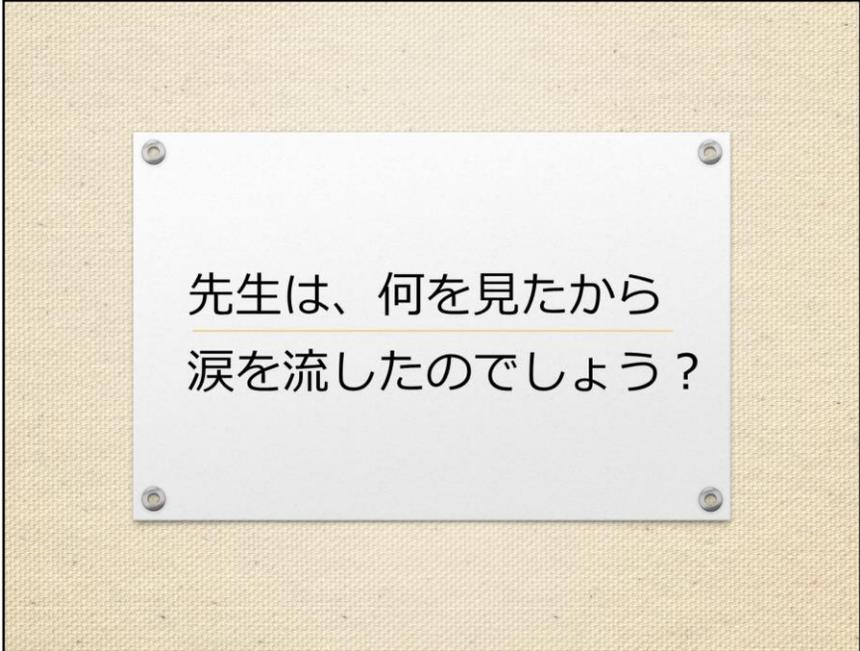
(留意点)

- ・メッセージや声掛けした理由も発表させる。



(留意点)

- ・メッセージや声掛けの内容が共有できた後、数日後の担任の先生の様子(スライド画面)を伝える。
- ・教室に入る前の、先生の不安な気持ちを想起させる。



先生は、何を見たから
涙を流したのでしょうか？

(留意点)

- ・担任の先生は何を見たから涙を流したか考えさせてもよい。
- ・先生の復帰を心待ちにしていた子どもたちの気持ちを想起させる。

言葉にはその人の思いが宿ると言います。

みなさんの心や行動は、とても温かく、すてきでした。〇〇先生への黒板の言葉から、優しさと強さを受け取ることができました。

これからも、どんなときでも相手を受け止め、プラスの言葉を大切にできるみなさんであってほしいと思います。

校長先生より

5 黒板のことを聞いた校長先生から届いたメッセージを聞く。

(留意点)

- ・校長先生の言葉を通して、子どもたちの行動を価値付ける。



6 本時を振り返り、心に残ったことを書く。

(留意点)

- ・感染した人やその家族、職場の人など、当事者の立場に立って考え、行動することの大切さをおさえる。
- ・誰もがなりうることだからこそ、一人一人の正しい行動が大切であることをおさえる。